

会 振

も く じ

大分県の芸術文化振興に期待……………	1
第28回県芸術祭アルバム……………	2～3
県芸術祭賞等受賞者一覧表……………	4
県芸術祭に参加して……………	5
海外派遣研修報告……………	6
新設の文化ホールに期待……………	7
事務局だより……………	8



大分県芸術文化振興会議

■発行人：仲町謙吉 ■編集人：秋葉正嗣

(題字 堤錠山)

№. 87

平成 4.12



大分県の芸術文化振興に期待

大分県立芸術文化短期大学学長 安 永 武一郎

大分に着任して約2年9ヶ月が経過した。静かに大分の文化的動静を省みて思う事は、結論的に九州地区に於ては、まあまあ活動的な県といえるだろう。先ず、地元の民話を題材としたオペラを作るという事は全国でもそうあるものではない。大分は19年ぶりではあるが「吉四六昇天」に続いて「ペトロ岐部」という大作を成し遂げた。しかも殆ど全員が地元のソリスト、合唱団、バレエという手作りであり、別の勤務の傍ら一致して作り上げた点を評したい。又その他地元の声楽家、ピアニスト、合唱団の演奏会が割合に数が多い事も非常に良い事である。又、絵画、彫刻、デザイン等の展覧会もしばしば開催されており、地元出身の大家達の展覧会(例えば河合誓徳40年の歩み展他)も開催され芸館、トキハで賑わっている。バレエも昨年は旧ソビエトのバレリーナ多数を招いて地元バレリーナとのジョイントで観衆を湧かせたり、演劇も本年10月に、自作自演の手作りで聴衆に感動を与えたりなど、それぞれの分野で独自の活動をしている現状を総合的に見れば、九州地区ではかなりの活動県であると言えよう。その他、外国のオーケストラや、室内楽の演奏会も時たまではあるが生の演奏を聞く事が出来たり、県出身の大ピアニストの園田高弘氏が外国オケと協演を大分で開催するなど、仲々良い事である。

●県民への要望

私の要望は唯一つ。それは聴衆(観衆)を1人でも多く動員して、出来得れば常に会場を満杯にする努力を、県民市民の意識として相互に連絡し合いながら頑張ってもらいたい事である。会場が満杯になると2つの利点に伴う。1つは、演奏者に対して大きな激励になり、特に地元演奏者は、これをバネにしてもっと精進しようとする心情を育て、外來の演奏家は気分を良くして大分に愛情を抱くようになる。利点の2つ目は、満杯にする事によって少しでも経済的に楽になる。県外から或いは外国から招く時は常に経済が問題となる。外国から個人や団体を数多く招く事が出来れば、それが文化活動の活性となり、外部から大分を文化県・文化都市と自然に評される事になろう。それを私は望み、心からお願いしたいと思う。



宮崎 喜 恵
(大分市花隈3の4・県美協会員)

第28回大分県芸術祭

第28回 県芸術祭アルバム

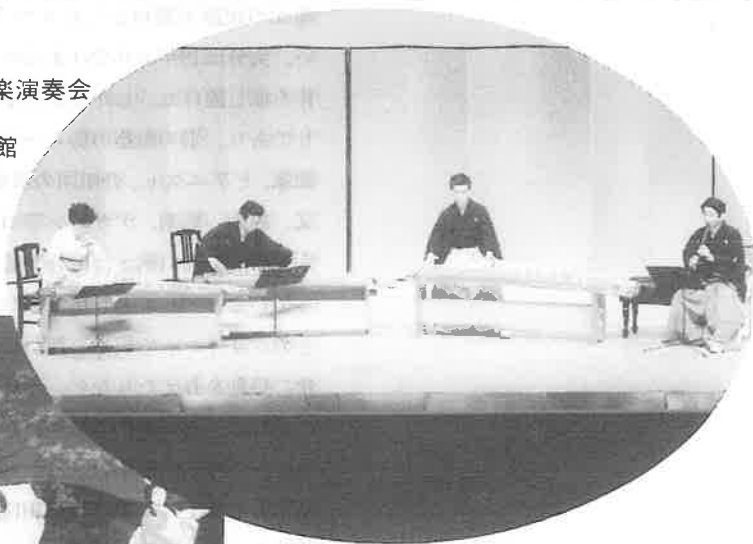
開幕公演

「吹奏楽の夕べ」大分県吹奏楽連盟演奏会 10月1日 津久見市文化会館



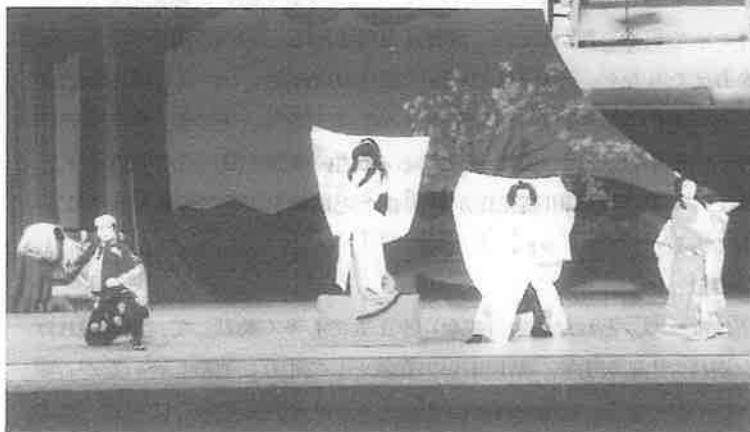
中幕公演

箏・三絃・尺八による邦楽演奏会
創明音楽会九州支部
11月14日 県立芸術会館



閉幕公演

豊後舞踊百選～義経記～
大分県日本舞踊連盟
11月29日 県立芸術会館



第28回大分県美術展
9月29日～10月18日
大分県立芸術会館



第28回大分県芸術祭

第7回 おおいた 音楽芸術週間



11月10・11日の北村英治ジャズコンサート



11月15日のハンガリー交響楽団



11月26日～28日の第8回園田高弘ピアノコンクール



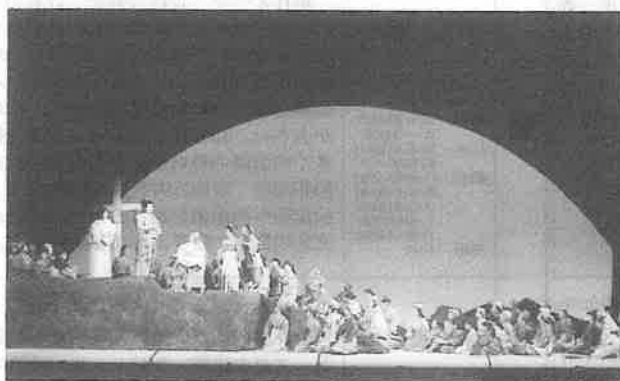
優勝の小池陽子さん



11月9日の
徳永・園田デュオピアノコンサート

波乱の生涯を壮大なスケールで描いた感動の新作オペラの舞台

10月18日 県民オペラ 大分文化会館



歌笑・涙ありの楽しい舞台

11月16日 「都町エレジー」県民演劇 県立芸術会館



11月23日の第28回大分県短歌コンクール



11月12日～13日の第17回県高校文化祭



第28回大分県芸術祭賞等受賞者一覧

大分県吹奏楽連盟など4団体、6個人に

賞	受賞者(団体)名	功 績 概 要	賞	受賞者(団体)名	功 績 概 要
芸術祭賞	大分県吹奏楽連盟 代表/吉野 昭典 住所/大分市花津 〒870-0000 大分県 楽器内	創立30周年記念行事として「吹奏楽の夕べ」と題し、中央のジャズピアニストとの協演も行うなど、第28回大分県芸術祭開幕公演を成功させた実績は大きい。 また、平素から地域文化の向上を目指し、豊かな情操の涵養と、青少年の健全育成を図るなど、その実績は高く評価され、今後の活動が大いに期待される。	功勞賞	杉原 昌子 団体/大分県洋舞踊協会 住所/大分市 〒870-0000 職業/舞踊指導家	県民バレエ創設の母体創りから現在に至るまで、常に情熱をもって大分県洋舞踊協会の発展に献身的な努力をし、本県芸術文化振興のために積極的な運営にあたり、又広い視野と識見をもって常に文化活動の推進力となってきた。 その温厚・誠実な人間性が会員の信頼を集め、特に会長就任以来、昨年度の「大分・ソ連友好バレエ公演」の成功には、その影の功勞者として称賛される。
	創明音楽会九州支部 代表/田中 愛子 住所/大分市 〒870-0000	芸術祭中幕行事として「箏・三絃・尺八による邦楽演奏会」を開催し、チェロやコーラスも取り入れるなどその意欲的な演奏で好評を得た。また、中央から一流の演奏家を迎えての演奏は大分の聴衆に深い感銘を与えるとともに、地元邦楽の振興と地域文化の向上に大いに貢献した。	奨励賞	末田 英三 団体/大分県民演劇制作協議会 住所/大分市 〒870-0000 職業/会社員	心臓病の手術をして間もなく、昭和60年第21回大分県芸術祭主催公演「迷路」(野上弥生子原作)出演後脳梗塞で倒れるが、1年の闘病生活を経て舞台に復帰。その後、同団体の加来ひろし事務局長が病の床に伏したあと事務局次長として舞台芸術のために尽力した。 現在もなお闘病を続けているが、本年度芸術祭共催行事「都町エレジー」で見せた名バイプレーヤーとしての劇団歴20年の演技力は完成度の高いものである。
	大分県日本舞踊連盟 代表/花柳昌吉郎 住所/大分市 〒870-0000	芸術祭の閉幕を飾る「豊後舞踊百選一義経記一」を開催。今回の公演は史実上の人物に焦点をあて、会員総出演で年代順に構成した圧巻であり、メンバーのひたむきな舞踊への情熱と精進の賜物であり、その成果が大である。	賞	中川 國生 団体/大分県民オペラ協会 住所/大分市 〒870-0000 職業/大分県立芸術文化短期大学附属短匠高等学校教諭	創作オペラ「吉四六昇天」以来19年ぶりに文化庁地域文化振興特別推進事業として3ヶ年をかけて制作した大作「ペトロ岐部」の主役ペトロ・カスイ岐部として、その全生涯を描くために全精力を傾け、その成果が大きい。15年にわたるキャリアを持ち、多くの公演の舞台監督を務めることから、昭和53年「吉四六昇天」の大阪公演、中国公演等への出演を続けるなど、本県オペラ文化の振興に数多くの業績を残した。
功勞賞	佐藤 峻峰 団体/大分県俳句連盟 住所/大分市 〒870-0000 職業/なし	昭和46年の大分県俳句連盟発足以来20年間大分県俳句大会選者として活躍、その間県下俳壇の中心となり俳句の普及と県下有季定型俳人の育成に努められたその功績は大きい。 昭和60年に就任した大分県俳句連盟会長を本年度末をもち勇退するに当たり、今後大分県俳壇史編集委員長として県下に埋もれた先達の遺跡の掘り起こしに後半生を捧げる決意である同氏のこれまでの功勞は、誠に大である。	特別感謝状	原 嘉寿子 住所/大分市 〒870-0000 職業/作曲家	「脳死を越えて」、「那須与一」、「よさこい節」等のオペラの話題作を次々に発表。又、文部大臣賞、ジロー・オペラ賞なども受賞した作曲家で、オペラ作家としてゆるぎない地歩を確立している。3年をかけて大分のため創作オペラ「ペトロ岐部」を台本から書きあげ作曲したことにより本県の芸術文化の向上に大きく貢献した。
	加来ひろし 団体/大分県民演劇制作協議会 住所/大分市 〒870-0000 職業/なし	昭和63年第24回大分県芸術祭共催行事「荷馬車のある風景」の練習半ばで脳出血で倒れ入院。しかし、術後は病の克服に全力をあげ、本年度芸術祭共催行事「都町エレジー」で完全舞台復帰を果たし、大きな感動を多くの人々に与えた。 劇団結成以来20年間事務局長を務めており、舞台での演劇に対する情熱は他の範とするに十分足るものである。	賞	津久見市実行委員会 代表/岩崎 泰也 住所/津久見市大字津久見 8260番地	芸術祭開幕公演「吹奏楽の夕べ」の開催にあたり、地元実行委員会として主催団体大分県吹奏楽連盟とともに大きな役割を果たし、成功させた功績は誠に大である。

第28回県芸術祭に参加して

高文連



大分県高等学校文化連盟
会長 安部 秋

大分県高文連が昭和26年に全国に先駆けて発足したが、当時の加盟内訳は33校7部門であった。以来42年の間に県下加盟校も増加し現在は80校15部門という大世帯になっている。

その総合文化祭が毎年県下9地区持ち廻りで開催されているが、今年で第17回総合文化祭を迎えるに至っている。この総合文化祭に出場する各部門はそれぞれに発表会を開催し代表校を決定しているが、部門発表会、総合文化とも県芸術祭の協賛行事あるいは参加行事としての役割を担っている。特に総合文化祭は高文連の一大行事であり、高校県体に匹敵する大会である。それだけにこの文化祭を各地区持ち廻りとし、県民に広く紹介し理解を深めてもらうことは意義がある。

今後は全国高文連の中核的存在として質的向上を目指し、マンネリ化しないためにも、次代を担う若い高校生の創造活動や文化活動の育成に心がけなければならない。21世紀に羽ばたく若い力こそが、心豊かな人づくり、豊の国づくりを目指す大分県芸術文化振興の主旨にそぐうものであろう。それだけに文化面の各ジャンルで活躍されている方々のご助言とご指導が高文連活動を質的に高めていくものだと思う。

大分県民オペラ



大分県民オペラ
中川 國生

3年前に、文化庁地域文化振興特別推進事業の指定を受けて以来、計画されてきた「ペトロ岐部」の公演が、去る10月18日(月)午後6時、大分文化会館大ホールで開催された。当日は二時間以上前から会場を待つ観客の列が出来、満員の盛況であった事を感謝したい。

今回の公演では文化庁、大分県、県教育委員会また各報道機関から多大な御支援を頂きお礼申し上げます。公演が近づくにつれ、自分の責任の重さが痛感され身のひきしまる思いで練習に励んできた。8月に入り、作曲者の原先生、全日本地方オペラ協会の大賀先生をお迎えし、音楽、発声など細かい指導を受けるに従い、多くの収穫を得たが、反面自分の非力さを思い知らされたのも事実であった。大分県の国東半島からこれほど偉大な人物が存在していた事実を、私は全く知らなかった。しかし指揮者(加藤公康氏)、演出家(桂直久氏)の意図と、自らの想いとを融合させながら練習を重ねるうちに、私は「ペトロ岐部」という1人の人間の魅力のとりこにな

っていったのである。合唱、オーケストラ(九響指導)、照明、大道具、衣装など総勢150名を超えるであろう人々が協力し、1つの舞台を作りあげる苦勞の大きさは又、それを成功させた時の感動の大きさへとつながっていったのである。今回の公演が、県内は勿論、広く県外そして全国に、大分県が生んだ偉大な人物「ペトロ岐部」の存在を知って頂く機会になれば幸いである。そしてその為に、たとえ微力でも私自身も努力を積み重ねていきたいと思っている。

大分県民演劇



大分県民演劇事務局長
賀来 ひろし

「都町エレジー」は、好評だった。ママの演歌と清末のクラシックはききごたえがあったし、親子の世代の違いからくるケンカ、進学、そしてバーの雰囲気などなど、親しみやすい題材などが入っていた故だろうか。

この芸術祭に参加させていただいて、私自身は多勢の観客に自分の声とコトバで働きかけ得たことに、大きな喜びを感じている。

同時に、歌にしろ台詞にしろ観客に分からないモノは、意味がないということだ。私たちもよく何て言えるかよく判らんと言われるが、発声が今後の大きな課題であろう。外国の人が歌って、かえってよく判る。単に「歌の心」だけではないらしい。

終わりに、私の杖代りになって練習について来た妻に、アリガトウ。

大分県番傘川柳連合会



大分県番傘川柳連合会
副会長 佐藤 真砂延

芸術祭共催の大分県川柳大会は、10月10日、県市町村会館において開催された。

24年目を迎えた大会は、県下各地から132名の川柳愛好家が積極的に参加してくれた。第1回目ときは、真砂延報として川柳「高崎山」に掲載されたが当時の出席者は、70名となっている。

24年目にして、倍増近い参加者となったが、これは連合会参加の各会長、非番傘系の会長更には、指導に当たる関係者の協力の賜であって深く感謝の意を表したい。

初めて出席した女性の方から、柳友の入選句を聞き感動をした旨の電話を貰ったとき、生涯教育に適應するであろう川柳の普及に、更に努力をしようと誓ったのである。

ヨーロッパで見つけたもの



総合技術工学院非常勤講師

久間章江

今回のヨーロッパ研修の私の最大の目的は、伝統的な西洋絵画の長い歴史を自分の目で確かめ、肌で感じとってきたいということでした。特にルネッサンス時代を中心にした油彩画とフレスコ画などの作品を通して、表現素材や技法的なものにふれたいと考えていました。

35日間の日程でイギリス、ベルギー、オランダ、ドイツ、イタリア、最後にパリという行程で代表的な美術館、教会、寺院を訪ねて歩きました。学生時代、西洋美術史の授業でスライドや画集で見た名画の数々を自分の目で確かめたい思いで限られた日数のなかでできるだけ多くの作品に触れてみよう計画したものです。駆け足の日々でしたが毎日見ることに明け暮れてもほんの一部しか見ることが出来ませんでした。油彩画では、シント・バーフ大聖堂のヴァン・アイクの祭壇画は実に強烈な感動をおぼえ、フレスコ画はイタリアを中心にたずねて回り、アッシジのサン・フランチェスコ聖堂、パドヴァのアレーナ礼拝堂のジョットの壁画に囲まれて立ちすくみました。ここでは見るのがそのまま祈りなのです。歩いても歩いてもきりがなほどの芸術品の数々に圧倒されながら歴史の厚みを実感させられたヨーロッパでした。

また主婦の目から見た町の様子も興味深く楽しいものでした。ヴェネチアの食料品の市場の150円で食べきれないほどのブドウ、フィレンツェの市場のにぎわい、町の小さな食料品屋で量り売りのパンとサラミのサンドイッチで、修道院の中庭で昼食することもありました。ドイツのミュンヘンでは年2回開くという蚤の市にも出会いました。様々な果物や見慣れない食べ物や、チーズやソーセージ、ハムの種類の多いことに目をみはり、売る人・買う人のたたずまい、休む暇のないくらい次から次に目にはいる町の様子も楽しい経験でした。自分の足でヨーロッパを歩いてみて多くの名画にふれ、またその町に生活する人々や町の風景に接することで視野が広がった様な気がします。大変密度の濃い時を過ごすことが出来ました。これからも言葉で言い表せない、多くのことをわたしなりに表現して行きたいと思います。

'92年海外研修を終えて



山香町立山香中学校教諭

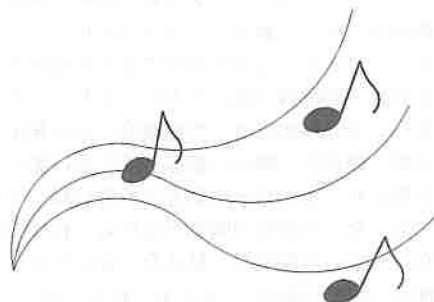
藤田喜久

この8月は、私にとって決して忘れることのできないものとなりました。音楽大学を卒業して以来、仕事に追われる毎日の中で、声楽の勉強も細々ながらしてはいましたが、このたびの海外派遣では、あこがれのイタリアの地で、声楽のレッスンを受けてくれることができました。

イタリアでは、オルヴィエートという小さな町で、世界的テノール歌手のジュゼッペ・ディ・ステファノ教授による講習会が行われました。教授は70歳というお年にもかかわらず、とても精力的で、イタリア語の正確な発音、発声について、自ら歌い、体の使い方、音の集め方など、手とり足とり教えて下さいました。この講習会には、もう2人、立派な先生がいらっしゃいました。ベルディ音楽院教授のアメリア・オーゼス教授からは、基礎的発声や、呼吸法などのヴォイストレーニングを。また、ウィーン国立音楽大学のゲルハルト・カーリー教授には舞台演技の実際的なアクティング・ステージングから作品の理論的・思想的背景の解説、さらには音楽史、文化史に至るまで、ステファノ教授の緊密な連携のもとに行われました。

全日程は、約1ヶ月の研修旅行でしたが、数多くの素晴らしい文化遺産にも触れることができ、何よりも、尊敬すべき先生方の貴重な助言を仰ぐことができたことは、これからの音楽活動に大きく役立つものであると、堅く信じております。

最後になりましたが、今回、このような機会を与えて下さいました芸術関係者の皆様にご心より感謝し、厚くお礼申し上げます。



新設の文化ホールに期待する



グループUNO

林 フミヨ

大分に本格的な文化ホールが建てられることは、文化運動に係る私たちにとって大きな喜びです。多額のお金と、高度の技術を駆使して完成されるであろう文化ホールが、今後の大分県の文化活動の流れを大きく発展させると思います。建設の内容については解りませんが、私の「夢」を述べます。

緑の自然の中に、音楽、美術、演劇等だけでなく、博物館、図書館等の複数の文化施設を含む、文化の殿堂の有る「文化ゾーン」を創って下さい。自然の中に大人も子供も文化を形として感じる場所と機会をゆっくりと静かに共有したいものです。更に忘れてはいけない事は、ハイテク時代の素晴らしいホールが完成すると同時に「人材」の問題です。文化運動を理解し、発展させる文化の専門家を育成し、優れた運営が行われ大分の文化の先導の役を果たせることを切望します。社会の繁栄を観るバロメーターに、文化的水準の高さが語られるのは、歴史的にも証明されていることです。たくさんの条件と、困難な問題が山積みしているでしょうが、永い目で見て思い切った文化ホールを創って下さい。私の夢が近い将来実現することを信じて楽しみに待っています。



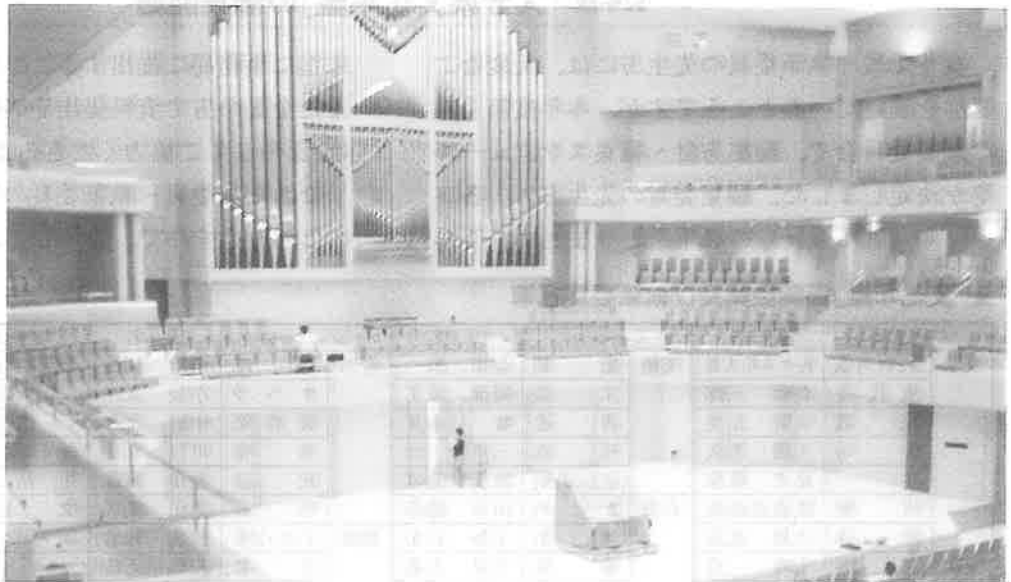
大分県日本舞踊連盟

花 柳 昌吉郎

今、県民の文化ニーズ多様化や文化活動の多彩化に伴い、それらに対応できる専用の施設が望まれている。ことに、舞踊演劇や音楽に関する専用ホール整備の遅れが指摘されていますが、この早期実現は嬉しい限りです。このホールが貴重な文化資産として活用され、芸術文化振興に大いに役立つことを期待致します。

規模及び設備

1. 座席 / 1300席乃至1500席。幅、間隔を出来るだけゆったりする。
2. 舞台 / 高さ10m、幅21m、奥行19m
3. 花道 / 幅2m以上、長さ10m
4. 迫り / 大迫り、中迫り
5. スッポン
6. リハーサル室 / 幅20m、奥行10m
7. 楽屋 / 大70㎡ 3室、小24㎡ 4室
8. 道具搬入口 / 上手に設置すること
9. 浴室
10. 小ホール / 座席300席乃至400席。



写真は10月30日にオープンした愛知県芸術劇場のコンサートホール

事務局だより

「文化を語る夕べ」盛大に開催



今年も12月5日(土)5時から、大分県教育会館大ホールに約200人が集い盛大に開催しました。この会は昭和61年に始めてから第7回目です。会員皆様方の交流・親睦の場として、意義のある会でした。

はじめに仲町会長の挨拶、続いて平松知事・宮本教育長からお祝いの御挨拶をいただきました。特に知事挨拶では、県病跡地に文化ホールを新設し、平成10年の国民文化祭誘致に向けて努力するなどの力強い御挨拶をいただき、県内の文化活動に明るい希望を抱くとともにその責任の重大さを痛感いたしました。さらに芸術文化活動の現況報告、地域文化功労者・芸術祭賞受賞者の紹介、並びに海外派遣者の紹介を行った後、自由歓談となり、和やかに懇談しました。

平成4年度 会員の秋の表彰者紹介

- ★平成4年度地域文化功労者(文部大臣表彰)
河野 彰
(大分県芸術文化振興会議 顧問・県美協会員)
- ★平成4年度文化の日知事表彰(学術文化功労)
伊坂 香里
(大分県芸術文化振興会議 理事・県民踊連盟会長)
- ★平成4年度文化庁芸術祭舞踊部門 優秀賞
吾妻 寛穂
(大分県芸術文化振興会議 個人会員)

芸術補助事業で開催される行事 H5.1~3

行事名	開催月日	会場
県吹奏楽アンサンブルコンテスト	1月10日	大分県立芸術会館
大分市少年少女合唱団第10回定期演奏会	1月17日	〃
グループUNO第21回コンサート	1月29日	大分コンパルホール
大分県合唱講習会	2月28日	大分農業会館
大分ジュニアコーラス定期演奏会	3月21日	大分県立芸術会館
二科展大分県支部第7回公募展	3月23日 28日	〃

92年版「大分県文化年鑑」の編集開始

編集委員・執筆委員の先生方には、大変なご尽力を頂いているところですが、本年度第1回の編集委員会で、編集方針・編集スケジュール等が決定しました。編集委員の先生方は、各ジャンル(執筆委員)の執筆をとりまとめ、1月

末迄に事務局に提出することになっています。また会員の方で資料提出等の依頼があった場合は、よろしくご協力くださるようお願いいたします。なお編集委員・執筆委員の先生方は下記名簿のとおりですので、よろしくお願いいたします。

★「文化年鑑」編集委員及び執筆委員名簿

ジャンル	氏名	ジャンル	氏名	ジャンル	氏名	ジャンル	氏名	
文芸	まとめ・小説	佐々木均太郎	美術	彫刻	合田 晋一	音楽	合唱	中川 国生
	現代詩	首藤 三郎		工芸	岡部 威男		オペラ	小長 久子
	短歌	日野 正美		書道	牧 泰正		軽音楽	中野 幸和
	俳句	工藤 芳久		写真	三重野 元		邦楽	川口 丸山
	〃	足立 雅泉		宣伝美術	波多野義孝		民謡	池田 萬龍
	川柳	佐藤真砂延		音楽	まとめ		山本 勝彦	吟詠
俚謡	土屋 北彦	声楽	上谷 正公	舞踊	まとめ・洋舞	佐藤 朱音		
美術	洋画	十時 良	器楽		辛島 光義	日舞	花柳昌吉郎	
	まとめ	菅 久	吹奏楽		斎藤 哲哉	民踊	伊坂 香里	
	日本画	鈴木 忠実	作曲	野崎 哲	演劇	まとめ	中沢とおる	
						演劇	能楽	緒方 基秀
						生活芸術	藤原 嘉久	
						文化財	吉永 浩二	
						表紙	首藤 詔子	
						カ ッ ト	沢田 佳孝	